

貧困の中で生きる子どもたちがいます あなたの支援を必要としています！

A. 子ども支援バッグプログラム

1. 「子ども支援バッグ」プログラムとは？

SYDでは、“みんなでまこう！ 幸せの種”をスローガンに『幸せの種まき運動』を全国的に展開し、その一環として『貧困と共に生きる子どもたち支援活動』を行っています。メキシコ、ブラジル、フィリピンのストリートチルドレンへの支援活動を実践しており、中でも、学校に通い今の生活から抜け出そうとがんばっている子どもたちを応援しています。学用品等を入れた『子ども支援バッグ』を作って、子どもたちにプレゼントをします。支援バッグは子どもたちの大きな励みとなっています。

ストリートチルドレンとは？

通りや道ばたで車の窓拭きや物売りなどの仕事をしたり、お金を恵んでもらって生活している、17歳までの子どもたちのことです。子どもでも生きていくためには働かなければなりません。公園やバスターミナル、町の中の空き地で、多くの場合、親と離れて仲間と助け合って生きていますが、親とのつながりを持っている子もいます。

粗末な掘っ立て小屋、空き家、なかにはダンボール箱や壊れたコインロッカーの中に住んでいる子も…、居場所のない子どもたちは夜、冷気を防ぐためにビルの物陰に身をひそめ、あるいは路上の隅にかたまって眠っています。このような子どもたちは、世界に何千万人、1億人以上いると推計されています。

メキシコわんぱくな子どもたちの家



子どもたち1人の食費は、1日100円程です

2. 「子ども支援バッグ」を作ろう！

(1)「支援袋」を作って、(2)「支援品」を入れたら『子ども支援バッグ』のできあがりです。

子ども支援品は買う必要はありません。家の中、机の中に眠っているものを集めています。未使用のものをお願いします。現地に(毎年8月)私たちが持って行き、一人ひとりに手渡しています。支援バッグと共に皆さんの“気持ち”を届けています。ささやかなプレゼントでも、子どもたちの大きな励みとなっています。



支援バッグの中身(参考)



現地で手渡します

(1) みんなで作ろう！「支援袋」

☆支援袋を作る

大きさ
(縦 35~40cm×横 25~30cm)



右の①～⑨の支援品を入れますので、入口があり、ひもでしぼる形。
子どもが使いますので、縫い代は丈夫にしてください。

(2) みんなで集めよう！「子ども支援品」(支援袋に入れるもの)

① ノート(シンプルなもの)	※未使用	(1冊)
② 消しゴム	※未使用	(1コ)
③ 鉛筆	※未使用	(2本)
④ 色鉛筆 or サインペン	※未使用	(1セット)
⑤ Tシャツ(衣類はTシャツのみです)	※原則として未使用	(1枚)
⑥ フェイスタオル	※未使用	(1枚)
⑦ 手作り記念品 or 遊具(縄跳び、こま、けんだま等)		(1品)
⑧ メッセージ(絵手紙など)		(1通)
⑨ その他(歯ブラシ・石鹸など)	※未使用	(1つ)

※支援品一品を集めるだけでも結構です。

※Tシャツは原則として未使用です。着用した場合はきれいに洗ってたたんだものをお願いします。

※⑦手作り記念品と⑧メッセージは、個人や学校での活動、各種集いで作りましょう。
※支援品はSYDに直接持ち込むか、下記まで送ってください。

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 SYDビル16F SYD青年部まで

学校へ行きたくとも 行けない子どもたちがいます！

B. 子ども学資支援プログラム

1. 「子ども学資支援」プログラムは？

SYDでは、貧困の中にあって学校に行けない子どもたちへの支援プログラム、「子ども学資支援」をおこなっています。地球上には、学校へ行きたくても行けない子どもたちが1億3000万人もいると言われています。今、私たちはフィリピンのストリートチルドレン(スカベンジャー)への学資支援活動を行っています。※スカベンジャー(換金できる資源ゴミを拾って生計を立てる人)

ゴミ捨て場で働く子どもたちの“夢”

- 一番は、毎日の食事が心配なく食べられること。
- 二番は、学校に行きたい。(卒業して職に就きたい)
- 三番は、できたら薬がほしい。

◎遊園地や動物園に行って遊ぶことは
夢にも考えられないことです。

あなたの支援が笑顔に変わる！



※写真の子どもたちは、現地法人と協力し私たちが支援しているフィリピンの子どもたちです。

2. 「子ども学資支援」の方法は？

子どもたちの“夢”は、毎日の食事が心配なく食べられること。そして、学校に行くこと(卒業して職に就き今の生活から抜け出したい)です。学校へ行きたくても行けない子どもたちは、あなたの支援を必要としています。私たちがこれまで支援してきた子どもたちの中から大学生が誕生しています。卒業して同じ境遇にいる子どもたちの支えになることを誓っています。あなたの支援は子どもたちに夢と希望を与えます。一輪でも多くの“笑顔の花”が子どもたちの心に咲くよう、ご支援をお願いします。

※フィリピンでは小学校6年間、高校が6年間で、中学はありません。大学は日本と同じ4年間で基本です。

※大学生は、1人年間180,000円程かかりますので、10口で1人分(年間)の学費になります。

★子ども学資支援 1人1年間、18,000円

・郵便口座番号： 00140-6-670944

★大学生支援 1口、18,000円

・加入者名： 幸せの種まき献金

☆郵便振込用紙の通信欄に「子ども学資支援」と記入し送金して下さい。(記入のない場合は、一般幸せの種まき献金になります)

※送られた支援金は100%現地に届けています。

※あなたが支援している子どもの写真と名前をお知らせします。

※何人かで一人の支援をする方法もあります。みんなで協力して実践しましょう。



貧困と共に生きる子どもたちの 学校を支えてください！

C. ぱがらっぷ・サポーター100

1. ぱがらっぷ・サポーター100とは？

厳しい境遇の中で懸命に勉強している子どもたちの学校を100人以上の仲間で支援する活動です。SYDでは毎年、現地法人CIF(クリエイティブ・イメージ・ファンデーション、代表:瓜生敏彦氏)が運営する学校を訪問して子どもたちと交流をしており、その学校の運営を支援しています。学校は2つあり、ひとつはケソン市パヤタス(ゴミ処分場の側)にあって200人前後の子どもたちが通っています。もうひとつは、マニラ市トンド(通称スモーキーマウンテン)地区にあり、幼稚園から小学生まで150人前後の生徒がいます。

あなたの支援で学校が運営されます！



※ぱがらっぷ・ラーニング・スクール(パヤタス) 2001年設立。ぱんがらっぷ・ラーニング・スクール(スモーキーマウンテン) 2002年設立。

1988年、瓜生敏彦さんは、訪れたスモーキーマウンテンの取材のなかで、そこで初めて本物の貧困の姿を目にした。特に子どもたちへの取材インタビューの中で驚いたのは、「もし欲しいものがもらえるとしたら何が欲しいですか」との質問に、子どもたち全員が、「学校に通い読み書きを習いたい。今の生活を変えることができればいいなあ」という返事だった。子どもたちが持っている純粋な夢に深い感銘を受け、子どもたちを「ゴミ拾い」から救い出し、貧しい人たちを支援することをそこで決心した。そして、パヤタスとスモーキーマウンテンの住民を支援し、人間としての生活を可能にすることを唯一の目的とするCIFを設立。2001年、ついに“夢”の学校を建設したのです。

ぱんがらっぷとは
(PANGARAP)

タガログ語で

“夢”という意味です

2. 「学校支援」の方法は？

瓜生さんは、学校の運営資金調達のために映画制作や貿易などに従事し、これまで誰の助けもかりずに運営資金を生みだして来ました。しかしフィリピン経済は混沌とし、安定した資金の調達はとても厳しい状況下にあります。学校の運営資金は、2校で月30～40万円です。そこで、「ぱがらっぷ S・サポーター100」では、100人以上の仲間で年間120万円以上を支援しようとしています。あなたの支援は子どもたちに夢と希望を与えることができます。ご協力をお願いします。

★ **1口、10,000円** です。 ※学生(個人)は半口(5,000円)からできます。

・ 郵便口座番号: **00140-6-670944**

・ 加入者名: **幸せの種まき献金**

☆郵便振込用紙の通信欄に「ぱがらっぷ学校支援」と記入し

ご送金下さい。(記入のない場合は、一般幸せの種まき献金になります)

※送られた支援金は100%学校に届けます。

※年1回、学校の様子を写真等でお知らせします。

※「ぱがらっぷ S・サポーター100」の名簿を作成し学校の子どもたちにお知らせします。



SYDの《幸せの種まき運動》

ーみんなでまこう幸せの種ーをスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの“幸せの種”をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、できるだけ“幸せの種”をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《 三つの “幸せの種” 》

こんにちは！ という “ふれあいの種”
ど う ぞ！ という “思いやりの種”
ありがとう！ という “よろこびの種”

幸せの種をまく『幸せの種まき活動』

1.学習活動 ストリートチルドレンを知ろう

ストリートチルドレンなど貧困と共に生きる子どもたちを知るための「幸せの種まきキャンペーン」(SYD出前講座)を無料で実施しています。学校や生徒会、クラブ・サークル、またPTAや子ども会などの団体・グループで実施しましょう。

※東日本大震災の現状報告・支援活動状況のお話もしています。

2.収集活動 Tシャツや学用品などを集めよう

家にある未使用の学用品(ノート、消しゴム、ボールペン、サインペン、鉛筆、色鉛筆)やTシャツ、タオル、遊具など、子どもたちへの支援品を集める活動です。

3.献金活動 献金をしよう、献金を集めよう

ーみんな同じ地球の子ーを合言葉に、ストリートチルドレンを中心に世界中の貧困と共に生きる子どもたちの支援をはじめ、国内の各種福祉施設や東日本大震災などの災害被災者の支援をするための活動です。※子どもたちへの学資支援も行っています。HPをご覧ください。

献金箱や資料を差し上げています。詳細は下記にお問合せ下さい。

4.工房活動 子ども支援袋や記念品を作ろう

子どもたちのために寄せられた学用品等の支援品を入れる袋(子ども支援袋)や折り紙、和紙等のいろいろな材料で置物や飾り、壁掛け等を子どもたちのために作ったりします。SYDがフィリピンや被災地に届けています。

5.メッセージ活動 手紙(絵手紙)を書こう

一人暮らしのお年寄りや被災者に“こんにちは！”と励ましたり、お世話になった方、大切な人、お友だちや家族に“ありがとう！”の心を伝えたりする活動です。フィリピンや被災地の子どもたちに絵やメッセージ(日本語可)を書いたりもしています。

…学校やグループでの活動…

幸せの種まきキャンペーン(SYD出前講座)の実施



与那国町立比川小学校



岡山市立福田中学校



子ども支援袋を縫う沖縄伊江中学校



子ども支援袋を縫う埼玉県連合会



学用品と支援費を毎年集めている国際ソロプチミスト青梅



できあがった子ども支援袋(Tシャツ、鉛筆、消しゴム、ノート等の支援品を入れます)



沖縄県宜野湾中学校でのウチワへのメッセージ活動！



青年ボランティア・アクション in フィリピン参加者が現地に届けています。



カリタス女子中学高等学校からの手作りポシェットをゴミ山の少女にプレゼント



プレゼントされた支援バックを大事にかかえる少女！



〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
TEL: 03-3405-5441 FAX: 03-3405-5424
E-mail: info@syd.or.jp <http://www.syd.or.jp/>

※子どもゆめ基金の助成金の交付を受けて作成しています。